

科学と宗教 対立と融和のゆくえ——目次

序 科学と宗教の交錯……………金子 務 9

- 1 なぜ科学と宗教を問題にするのか 11
- 2 科学はキリスト教的なのか 15
- 3 科学と宗教の映発的關係——大拙とアインシュタインの場合 18
- 4 なぜ無意識が問題なのか
——「分別する無意識」と「いのちの岩盤からの返照」 22

第1部 ヨーロッパとの対話——知と信の原型から

第1章 世界宗教と科学……………伊東俊太郎 33

- 1 はじめに 35
- 2 世界宗教の起源としての「精神革命」 36
- 3 「精神革命」と「横への超越」 37
- 4 「水平超越」の根源としての「宇宙連関」 39
- 5 「科学革命」と「宇宙連関」 41

第2章 キリスト教以前の科学と宗教……………山口義久 49

- 序 宗教についての予備的考察 51
- 1 古代ギリシアの理論天文学 52
- 2 古代の地動説 54
- 3 ギリシアにおける理論科学の要因 58
- 4 ギリシアにおける宗教と科学 60

第3章 ガリレオ裁判の真実……………田中一郎 69

- 1 はじめに 71
- 2 天文観測と地動説の確信 72
- 3 第一次裁判 74
- 4 第二次裁判 78
- 5 判決 83
- 6 ガリレオ神話の起源 85
- 7 おわりに 87

第4章 乾燥地文明における帝国と宗教の形成……………嶋田義仁 91

- 1 ヨーロッパ文明理解の困難 93
人間への問い／京都学派の哲学者たち／「ヨーロッパの森」のなかで語られた
哲学思想／「アフリカの森」へ
- 2 黒アフリカ・イスラーム文明 97
アフリカのサーヘル・スーダンの農業と牧畜文化／自然灌漑による乾燥地河川
文化／サハラ交易による文明化／黒アフリカ・イスラーム文明
- 3 アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明 103
砂漠が文明を生む／アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明／家畜が可能にした国
際交易文化／家畜力が可能にした帝国形成／家畜文化における科学技術／化石
エネルギー発見以前の時代におけるエネルギー

第5章 イスラームと科学技術……………三村太郎 115

- 1 はじめに——最先端科学を担ったイスラーム文化圏 117
- 2 アッバース朝におけるギリシア科学の必要性 121
- 3 権威を超えるイスラーム科学 128
- 4 さいごに 132

第2部 アジアからのメッセージ——こころの深層を巡って

第6章 宗教と科学の融和と拒絶……………正木 晃 141

- 1 科学と向き合う宗教 143
仏教と科学の関係／キリスト教の場合①——ヨハネ・パウロ二世／キリスト教の場合②——パウロ・テリリッヒ／キリスト教の危惧／教行信証
- 2 新たな課題の登場 153
科学がもたらす宗教の変容／E・Tとキリスト教神学／E・T探査は人類の未来探し

第7章 原始仏教における知と信……………植木雅俊 161

- 1 古代インドに現れた物理学 163
インド人の壮大な時空観／『法華経』に描かれたブラックホール
- 2 普遍性の功罪 169
インド人の普遍的思考／ゼロの発見と巨大数／迷信・呪術・ドグマを否定した釈尊
- 3 釈尊は何を説いたか 175
如実知見ありのままに見ること／ドグマの否定／自分で確かめて信ずる

第8章 脳と心と無意識——脳科学・幸福学と仏教の関係……………前野隆司 183

- はじめに
- 1 受動意識仮説 185
 - 2 幸福学 192
 - 3 ディスカッション(Q & A) 194

第9章 鈴木大拙から折口信夫へ、そして宮沢賢治へ……………安藤礼二 203

- 1 「如来蔵」とは何か 205
- 2 鈴木大拙と西田幾多郎 208
- 3 近代日本の哲学、文学、古代学の起源 212
- 4 「日本の霊性」の可能性と不可能性 216

第10章 日本文化における知と信と技——和歌と俳諧に読む……………荒川 紘 223

- 1 自然と四季を詠む和歌 226
『万葉集』の自然と四季／『古今和歌集』の自然と四季
- 2 地名を詠む 228
歌枕の誕生／虚構の自然を詠む——屏風歌

3	『新古今和歌集』 藤原定家——美の錬金術師／最勝四天王院の障子歌／西行——自然との一体化	230
4	芭蕉 歌枕の旅と自然の発見／「造化にしたがひて四時を友とす」／日本人とギリシア人	234
5	山岳信仰と神 信仰の山／修験道	236
6	日本の技——建築を例に	238
7	むすび——湯川秀樹の歌	239

第11章 内村鑑三による科学とキリスト教……………武富 保 243

1	札幌農学校	245
2	内村鑑三にみる科学	251
3	内村鑑三にみるキリスト教	257
4	おわりに	261

あとがき 科学隣接領域研究会の成果としての本書の意義——金子 務 266

科学隣接領域研究会の記録 275

著者紹介 277